

参考資料

分類名〔病害虫〕

参 21	根こぶ病抵抗性キャベツ品種「BCR 龍月」
------	-----------------------

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

根こぶ病抵抗性キャベツ品種「BCR 龍月」は、根こぶ病常発ほ場で薬剤を使用しない栽培において、高い発病抑制効果を示す。

普及対象：キャベツ生産者及び指導者
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

キャベツは県内における重要な露地品目であり生産振興が図られている。一方で、これらの産地では土壌病害である根こぶ病の被害が散見されており、対策が急務となっている。特に発病ほ場では、薬剤使用により、発病程度の軽減は図られるものの、収量や品質の低下を免れない。

そこで、所内根こぶ病常発ほ場における薬剤を使用しない栽培で抵抗性品種「BCR 龍月」の高い発病抑制効果が確認されたので、参考資料とする。

2 参考資料

- (1) 根こぶ病常発ほ場における薬剤を使用しない春播き、夏播き栽培において、「BCR 龍月」では根こぶ病の発病が抑制される（図1）。
- (2) 夏播き栽培で、適期定植により市場評価が高い1.3kg以上の結球重が得られる（表1）。

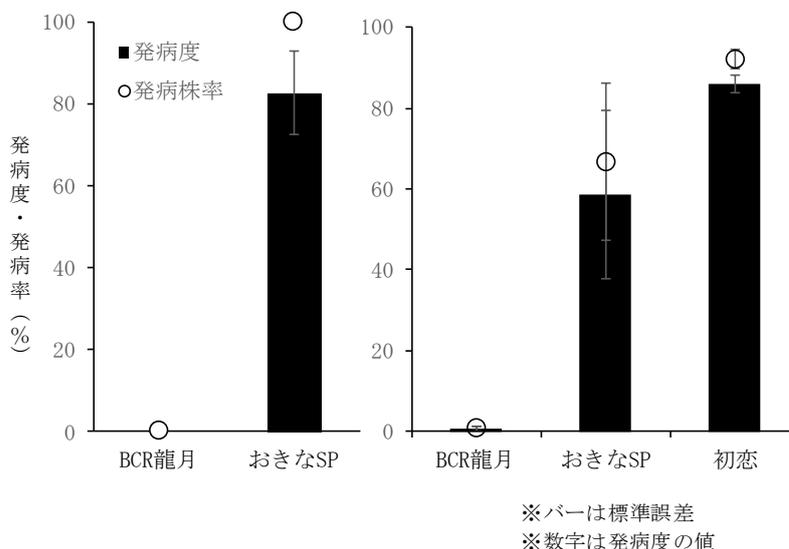


図1 品種による根こぶ病の発病に及ぼす影響（所内ほ場、左：令和4年度、春播き栽培、右：令和5年度、夏播き栽培、いずれも薬剤処理なし）春播き播種日：令和4年3月14日、定植：令和4年4月22日、令和3年度根こぶ病土壌菌密度 $1 \times 10^4 \sim 10^5$ 個/g 乾土
夏播き播種日：令和5年7月7日、定植：令和5年8月29日

3 利活用の留意点

- (1) 本試験は、宮城県農業・園芸総合研究所内の露地畑で実施した。
- (2) 「BCR 龍月」は中早生の品種である。夏播き栽培では定植が遅くなると、十分な結球重が見込めない場合がある。
- (3) 効果を得るためには十分な根張が必要なため、排水不良地で栽培する場合、病害の発生に応じて薬剤の使用を検討する。
- (4) ほ場試験における根こぶ病の発病調査は、0：発病なし、1：根系の 25%未満で根こぶあり、2：根系の 25%～50%未満で根こぶあり、3：根系の 50%～75%未満で根こぶあり、4：根系の 75%以上で根こぶありとしてそれぞれ調査し、発病度の算出は日本植物防疫協会「薬効・薬害 試験研究の手引き」に従って算出した。
(問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所 園芸環境部 電話 022-383-8125)

4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 試験研究課題名および研究期間
 - イ 園芸作物生産地における重要病害に対する防除技術の開発（令和 4 年、令和 5 年）
 - ロ AI を活用した土壌病害診断技術の開発（平成 29 年～令和 3 年）

(2) 参考データ

表 1 根こぶ病未発生ほ場における「BCR 龍月」の結球と球形（所内、夏播き栽培、令和 5 年度）

定植日 (月日)	収穫日 (月日)	定植から 収穫までの 日数(月日)	結球重 (g)	球の形状(cm)		扁平率 (%)	芯の形状(mm)		外葉数 (枚)	結球葉数 (枚)
				縦径	横径		長さ(縦)	幅(横)		
8/22 (慣行)	11/27	96	1,371	11.8	18.1	65	58	33	23.2	54.8
8/29	11/30	93	1,074	11.1	16.7	48	48	30	23.4	54.4
9/1	11/30	90	814	11.1	16.7	48	48	30	23.4	54.4

注) 播種日：令和 5 年 7 月 7 日。外葉数数は定植時の葉数 2.5 枚を含む。結球葉数は最小 5mm までの葉数。

(3) 発表論文等

- イ 関連する普及に移す技術
キャベツ栽培における土壌中の根こぶ病菌密度の推移と低減方法（第98号参考資料）

(4) 共同研究機関 なし